

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習 I		
担当者(Instructors)	堀 建治	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)	
「保育」や「幼児教育」とはどのような営みなのかを理論面、実践面から深める。理論面では文献輪読や調査報告を通して理解を深める。実践面では保育教材を作成し、その教材の指導法を考える。特に保育現場での実践を通じて、各人の専門性を高める。	

■ 授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態 (Class form)	演習
授業の方法 (Class method)	演習形式で行う。ディスカッションおよびグループワークを取り入れ、文献の輪読や保育教材の作成等、研究する。また他ゼミとの交流から自身の方向性について理解を深める。

■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数 (Num)	テーマ (Theme)	内容 (Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション (授業説明、注意事項)	<input type="checkbox"/>
第2回	研究課題の探求	興味のある分野に関連した新しい研究分野などの紹介も行い研究課題について調べる。	<input type="checkbox"/>
第3回	研究課題の設定	研究課題の設定を行う。	<input type="checkbox"/>
第4回	資料収集1 (文献資料による研究課題のリサーチ)	研究課題に関する図書資料を収集する。	<input type="checkbox"/>
第5回	資料収集2 (論文による研究課題のリサーチ)	研究課題に関する論文記事資料を収集する。	<input type="checkbox"/>
第6回	資料収集3 (その他資料による研究課題のリサーチ)	研究課題に関するその他関連資料を収集する。	<input type="checkbox"/>
第7回	研究課題の中間発表	各自の研究課題を見つけその内容を発表する。	<input type="checkbox"/>
第8回	調査ファイルの作成	各自の研究課題テーマに沿って調査を行いファイルにまとめる。	<input type="checkbox"/>
第9回	保育教材の作成	研究課題テーマに沿って研究を行い、保育教材を作成する。	<input type="checkbox"/>
第10回	保育教材の指導法	作成した保育教材の扱い方を研究する。	<input type="checkbox"/>
第11回	保育現場における実践研究 1	保育現場にでかけ、各自が作成した保育教材を実践する。	<input type="checkbox"/>
第12回	保育現場における実践研究 2	保育現場にでかけ、各自が作成した保育教材を実践する。	<input type="checkbox"/>
第13回	保育教材レポートの作成	実践研究での振り返りを行う。	<input type="checkbox"/>
第14回	振り返り発表準備	実践研究での振り返りを発表するための事前準備を行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	研究発表 (研究成果の発表)	実践での成果を発表し、質疑応答に答える。	<input type="checkbox"/>

■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)	
これまでの調査・研究の成果をレポートもしくは制作物で示せるように準備しておく。(2時間) 授業内での気づきや課題を調べる。(2時間)	

■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)	
成果報告他、レポート課題を実施する。内容を確認後、より研究を深められるような助言や各種資料を提供する。	

■ 授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)

知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼稚園教員・保育士になるための表現力、知識、能力を身につけ創造的に指導できる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	調査、実践研究を通して探究心と知識、表現力を身につけ、主体的に課題に取り組むことができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	現代の保育、幼児教育における様々な課題にこれまでの知識や経験を活かし改善できる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)				
<p>授業内試験：授業内で扱ったテーマについて、保育教材の作成や自分の考えをまとめた小文作成もしくは口頭にて確認を実施する。          その他：提示された各種課題の提出状況や授業での貢献度を含めて評価する。</p>				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて授業中に指示する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて授業中に指示する	
2		
3		
4		
5		